




收受年月日	議 長	事務局長	書 記
元・12・4			
第 124 号			

令和元年 12 月 4 日

埴町議会議長 大縄 武夫 様



総務常任委員会委員長 鈴木 安次



経済常任委員会委員長 鈴木 茂



委員派遣結果報告書

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施したので、その結果を報告します。

記

- 1 目 的 廃校利用の過疎地域振興施策
及び村内の県立農林高校と村との連携施策についての視察
- 2 経 過
 - (1) 派遣期間 令和元年 11 月 5 日～7 日 (3 日間)
 - (2) 派遣先 山梨県北杜市、長野県木島平村
- 3 派遣委員

総務常任委員 鈴木安次、小峰由久、吉田克則、高縁光、青砥與藏
大縄武夫

経済常任委員 鈴木茂、七宮広樹、藤田一男、割貝寿一、吉田広明
下重義人、鈴木孝則

(随行者：議会事務局長、書記)
- 4 視察内容
 - (1) 山梨県北杜市
廃校利用の過疎地域振興施策 (おいしい学校)
 - (2) 長野県木島平村
村と県立下高井農林高校との連携施策
- 5 結果
 - (1) 所見
 - ①北杜市 廃校利用の過疎地域振興施策
平成の大合併により郡内全 8 町村が合併し誕生した北杜市は、2018 年『住みたい田舎ランキング』1 位を獲得する自然豊かな地であるが、有名企業の工場が進出し、市内の昼間人口が夜間より逆転するなど、働く場所も確保されている

市である。同市の廃校利用の過疎地域振興施策として、明治、大正、昭和の三代校舎が並ぶ現地を視察した。正社員を含め約 20 名が勤務し、指定管理者制度による運営で、地元の野菜直売や農業体験、宿泊も可能な施設として、地区の活性化に大きく貢献している。オープン当初は 14 万人の来場があったが現在は 6 万人と減少し、運営費の赤字分は市側が補てんしているが、当町の振興公社への補てんとは比較にならないほど少額である。旧常豊小学校の跡地を今後どのように活用するかは大きな課題であるが、北杜市のような手法も検討すべきで、地域活性化と遊休施設の活用、運営コストなどのバランスを考慮し、より良い方向性を早急に打ち出してもらいたい。

②木島平村 村と県立下高井農林高校との連携施策




長野県の北部に位置する木島平村は人口約 4,500 人の過疎地域で、冬場は積雪が 2 メートル以上になる豪雪地帯だ。村内にある長野県立下高井農林高校と、木島平村の連携施策を村総務課政策調整係による説明を受けた。同校は北信越、飯山地域唯一の農林高校で現在 1 学年 80 名程度の生徒数。村内の中学生は毎年 10 名程度が同校に進学する。少子化の影響で数年前から統廃合が懸念されるなかで、ブナの植林をするプロジェクトや、地元食材を活かした食農食育体験授業、デイサービスのお年寄りと高校生の園芸福祉交流など、補助金をまったく使わず人を活用しながらの各連携施策は、地域をあげて学校を守る強い姿勢である。高校統廃合が議題になる前から、飯山市を中心とした地域内での協力体制もあったとのことで、当町内の埴工業高校存続に向けた大変有意義な研修であった。

③その他（栃木県宇都宮市）

視察最終日は栃木県宇都宮市のろまんちっく村を視察し、広大な 46 ヘクタールの敷地面積の中に農産物直売所や農業体験や宿泊もできる施設があった。高速道路のインターチェンジから 10 分程度と立地もよく、平日ながら直売所は人が賑わっていた。

(2) 委員報告書

別紙のとおり

收受年月日	議長	事務局長	議員派遣・委員派遣
元・12・11			
第 号	調 査 研 修 等 報 告 書		

令和元年12月11日

経済常任委員会
鈴木 茂委員長 様






総務常任委員会
鈴木安次委員長 様

提出者 七宮 広樹

派遣目的 (調査等名称)	総務・経済常任委員会 合同視察研修		
派遣の日時	令和元年11月5日(火)	派遣先	山梨県北杜市
	令和元年11月7日(木)	(場所)	長野県下高井郡木島平村
内 容	1) 山梨県 北杜市： 廃校を利用した過疎地域の活性化 2) 長野県木島平村： 村内の県立高校と村との連携施策		
派遣結果 (意見及び感想)	<p>廃校利用の過疎地域活性化の施策(おいしい学校)視察 現状と課題、今進めている事項等の全般について説明を受ける。 ノスタルジックな昭和の学校で学校給食が食べられ、また地元製品の販売や 宿泊施設も整っている魅力的な活用であった。 明治・大正・昭和の3つの校舎が横一列に並び、郷土の文化を大切に管理し ながら地域に根差した活用化に心が打たれた。</p> <p>村内の県立高校と村との連携施策視察 先ず、木島平村の概要の説明を受ける。 地域と連携する下高井農林高等学校の2学科8コースの取り組みに魅力を感じた。 2年次から自分あったコースを選択、3年次からも更に細分化した自分あった コースを選択しながら進路を定めることが出来る事は、生徒自身も 将来の目標が描きやすいと思う。また地域と連携した取り組みとして、特定 外来種植物の駆除活動・森の再生プロジェクト・地域での食農教育・園芸福 祉交流など地域連携の実例に多くを学びました。</p> <p>結びに、有意義な視察研修に感謝 視察研修は常に刺激を与えてくれる。そして「ひらめき」を受け、今後の埴 町の活性化につなげればと思う。議員にとって視察研修は大切な活動の一つ だと思う。</p>		



收受年月日	議長	事務局長	書記
元・11・29			
第 号	議員派遣 委員派遣		

様式1

査研修等報告書

令和元年11月29日

議会議長
委員会委員長 様



提出者 下 重 義 人

派遣目的 (調査等名称)	総務経済常任委員会行政視察研修		
派遣の日時	令和元年11月5日(火) ~11月7日(木)	派遣先 (場所)	山梨県北杜市 長野県木島平村
内 容	<p>第1 廃校利用の過疎地域活性化の施策について (おいしい学校)</p> <p>第2 過疎地域における高校の存在意義について</p>		
派遣結果 (意見及び感想)	<p>【第1】 山梨県北杜市は令和元年10月現在で総人口46809人平成16年から18年にかけて、8町村が編入合併し誕生したのが、新『北杜市』である。 2018年第6回『住みたい田舎』ベストランキングでは総合部門で第1位を獲得した自然豊かな市である。 明治、大正、昭和の三代校舎は、ふれあいの里に有り明治校舎は歴史資料館、大正校舎は農業体験農園施設として整備、昭和校舎を平成12年に総合交流促進施設(おいしい学校)として整備したとの説明を受けた。 明治、大正、昭和の3つの時代に建築された校舎を同じ場所に復元し、それぞれ違った形で運営しているケースは全国的にも珍しいようである。整備後は廃校利用の成功例として、当地区を訪れる観光客も増加したようだ。 経済効果としては地元農産品の直売、又地域高齢者の経験を活かした農業体験、郷土食『ほうとう』『そば打ち』体験の指導など都市住民との交流が促進され過疎地域の活性化に貢献されたという。 視察をした限りでは維持管理がかなりのウエイトを占めているように見受けられました。</p>		

【第2】

木島平村は長野県北部にあり千曲川の段丘面に水田が広がる落ち着いた景観を持つ農村である。

人口は1970年に6,470人であったが2010年には4,942人に減少し、現在過疎地域に指定されている。木島平村は農村であることに徹し、そこから新しい価値を生み出す方向をとって、農に向かい日本の風土を活かし大地から価値を取り出す生き方を現代に改めるために、農村文明塾を創設したそうだが、木島平村の唯一の県立高校である下高井農林高校は、時代を経て平成元年に3学級であったが、その後2学級になり、その際に学科は生物資源科と緑地環境科とした。さらに平成22年には、生物資源科に植物科学、動物科学、食品科学、食文化の4コース、緑地環境科に緑地工学、地域環境、緑地デザイン、フラワーデザインの4コースがそれぞれ設けられた。この様に多様なコースが設けられることによって、かつての農林高校のイメージは大きく変わり、柔軟な対応は現在多くの高校でも実施されるようになっている。又、木島平村と農林高校との連携を強め、地域に密着した存在になっていることを大きく評価したい。

埴工業高等学校も存続に向け地域密着の対応も一つの方法かと感じられた。

收受年月日	議員派遣	局長派遣	書記
元・11・13	委員派遣	藤田	根本
第 号	編	田	本

調査研修等報告書

令和元年 11 月 13 日

大綱 武夫 議会議長 様



提出者 吉田 広明

派遣目的 (調査等 名称)	総務・経済常任委員会合同視察研修		
派遣の 日時	令和元年 11 月 5 日～7 日	派遣先 (場所)	山梨県北杜市、長野県木島平村視察
内容	山梨県北杜市 廃校利用の過疎地域活性化の施策 (おいしい学校) 視察 長野県木島平村 過疎地域における高校存続活動視察		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>山梨県北杜市では、「おいしい学校」の取り組みを視察する。</p> <p>甲斐駒ヶ岳、八ヶ岳国定公園から湧水を使い日本の名水 100 選に選ばれ、サントリーの工場や温泉・観光事業、農業 (平成 31 年 3 月まで企業型農業生産法人 22 社誘致 / オリエンタルランド含む。) 平成 14 年北巨摩郡 7 町村が合併、平成 17 年にも 1 町が合併し、平成 18 年 3 月 15 日に新「北杜市」となる。合併町村内にあった、明治・大正・昭和の学校を移設し三代校舎として、ふれあいの里で観光集客事業を指定管理にて運営 (役員含め 21 名)。市から年間 500 万程度の補助を受けている。年間利用者数は 6 万人。昭和の学校「おいしい学校」では、宿泊施設、イタリアンレストラン、パン工房、ほうとうやそば打ち体験、農業体験、農産物直売などで、過疎化の進んでいる地区の活性化に大きく貢献している。課題は売上の減少、冬場の来場者不足、調理職人の不足 (観光地域で調理士は開業をしてしまう)、常豊小学校の跡地利用には、マーケット的に物販や飲食店は不向きと思われる。維持運営費が赤字になる可能性がある。教室を個別に貸し出す那須町朝日小学校跡地「那須町づくり広場」が参考になる。</p> <p>長野県木島平村「下高井戸農林高等学校」の存続活動は、全国の農業高校の新戦略として、「グローバル・アグリハイスクール宣言」を行い、5 つの基本方針 / グローカル教育で人材を育てる。地域社会・産業に寄与する。地域交流の拠点となる。地域防災を推進する。地球環境を守り創造する学校を目指している。村内中学校 1 学年・40 名程度から毎年 10 名程度が入学するが、少子化で入学者数も減少する。全国への募集は呼び掛けない。現在、県教は統廃校の意志を崩してはいないと説明される。</p>		



收受年月日	議 員	議 員	議 員	議 員	研修等報告書
元・11・29	委員	派遣	調査	調査	
第 議会 議長	委員	派遣	調査	調査	
	藤田	藤田	根本	根本	

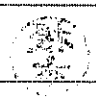
元 年 11 月 29 日

写

委員会委員長

提出者 高 縁 光

派遣目的 (調査等 名称)	総務 経済 常任委員会合同研修		
派遣の 日時	元年11月5日~11月7日 3日箇	派遣先 (場所)	山梨県~長野県 旧北杜市 2日 大王わさてい3日 道の駅3日 三つく本
内容	(一) 山梨県 北杜市 午後1時30分から 司会(清水氏) 議長(中嶋氏)説明を受ける 平成16年7町村十1町か かわり平成18年3月15日誕生した(人口46809)五現在人口減つ ている主な産業は①観光②農業③製造業 廃校を利用した お1111学校として利用している 又明治 大正 昭和の3代		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	校舎を復元しふいあ11の里として利用している (二) 大王わさてい初代深沢勇市氏天寿により開懸された (1886年)~1941年湧水を利用して大規模に発展した (三) 木島平村(岡田)総務課政策部長より説明(人口4694人) 農業主体として113種 2M 80% 森林である 農業高校の 説明を受ける 生徒数80~240人 10年~13年前から特色 も生かした農業高校にした11と始まる牛24頭いば打ち 教室、重機の運転等 除雪作業にも役立っている 12月には新庁舎に移転する (四) 道の駅(3まんちく(村)) 天然温泉を利用した宿泊施設であり滞在体験型 研修室 等も備わっている 春夏秋冬の楽しみが出来る施設を見る 物事は何事も早いうちに知り 始まることが大勢だと 感じた。		



埧町議会
 議事録
 平成二十一年三月三十一日
 第一回定例会
 議程
 一、埧町長報告
 二、埧町議会の報告
 三、埧町長答弁
 四、埧町議会の答弁
 五、埧町長の答弁
 六、埧町議会の答弁
 七、埧町長の答弁
 八、埧町議会の答弁
 九、埧町長の答弁
 十、埧町議会の答弁
 十一、埧町長の答弁
 十二、埧町議会の答弁
 十三、埧町長の答弁
 十四、埧町議会の答弁
 十五、埧町長の答弁
 十六、埧町議会の答弁
 十七、埧町長の答弁
 十八、埧町議会の答弁
 十九、埧町長の答弁
 二十、埧町議会の答弁
 二十一年三月三十一日





研修等報告書

收受年月日	議長	事務局長	書記
元・11・29			調査
第	号	吉田	克則
氏名			

	提出年 月日	令和元年 11 月 29 日	
調査等 名称	総務常任委員会及び経済常任委員会合同行政視察		
調査等 の日時	令和元年 11 月 5～7 日	場所	山梨県及び長野県・栃木県
調査等 の内容 意見 感想	行政視察先		
	11/5 山梨県 北杜市視察		
	11/6 長野県 木島平村視察		
	11/7 栃木県 道の駅ろまんちっく村視察		
山梨県 北杜市視察			
<p>廃校利用の過疎地域活性化の施策について視察研修をした。北杜市は美しい山々に囲まれ豊富な清流・天然水と日照時間に恵まれた魅力のあるまち「山紫水明」の里。人口46,809人 世帯数21,404 面積602.89km² (内森林占有率76.4%) である。4つ日本一がある山岳景観・国鳥オオムラサキ生息数・ミネラルウォーター・日照時間である。「住みたい田舎」ベストランキングされたが少子高齢化や人口減少は避けられない現況にあるという。明治・大正・昭和の三代校舎ふれあいの里として施設整備して過疎地域活性化の施策として事業を進めている。団体が指定管理者として運営がされている。廃校を利用した過疎地域の活性化への取り組みは興味があり参考になった。</p>			
長野県 木島平村視察			
<p>長野県下高井農林高等学校と木島平村の連携等取り組みについて視察研修をした。県立下高井農林高等学校も生徒数の減少等で学校再編も進む中、存続も厳しい状況にあるというのが村として様々な取り組みを行なっている。村総務課に政策調整係りを設置し農林高校との連携事業を実施。アクションプランでは、5つの基本方針を打ち出した。1. グローカル教育で人材を育てる学校 2. 地域社会・産業に寄与する学校 3. 地域交流の拠点となる学校 4. 地域防災を推進する学校 5. 地球環境を守り創造する学校 そして、5つの基本方針を具現化するために行動計画を定めた。木島平村の高校存続と農業振興にかける熱い思いが感じとられた。</p>			
栃木県 道の駅ろまんちっく村視察			
<p>「道の駅うつのみやろまんちっく村」は、46ha (東京ドーム10個分) という広大な面積の中に農産物直売所や体験農業・温泉、宿泊施設がある。春夏秋冬、四季をとおして楽しめる施設と感じた。運営面の説明はなかったが大きな施設なのでそれさうとうの経費が掛かっていると思う。</p>			



收受年月日	議長	事務局長	書記
元11 27			
第 号	令和元年 事務局長 書記		



令和元年 事務局長 書記 経済委員会合同行政視察報告書

提出者 鈴木茂

日時 令和元年 11 月 5~7 日
 場所 山梨県北杜市
 長野県木島平村
 栃木県ろまんちっく村

①山梨県 北杜市

北杜市は平成 16 年に 7 つその後一つの町村が合併した山梨県最北部の市であり、広さ 600 平方キロメートルの山紫水明のまちである。山々に囲まれ、さらに日照時間日本一、オオムラサキ蝶の生息数日本一などが有名である。そんな北杜市にあって平成 12 年に一つの場所に明治、大正、昭和の校舎を横一列に復元して観光施設化した所の研修報告です。

- ・明治校舎
カフェと歴史資料館として教育関係の資料、備品等の展示。
- ・大正校舎
農業体験、農園施設、そば打ち体験の指導、陶芸、工芸教室など。
- ・昭和校舎

「おいしい学校」として再現教室に昭和の学校給食、レストランぼーのボ～ノでイタリア料理の提供、農産物直売所、パン工房、宿泊施設 6 室を営業している。運営は市内 1 2 の企業と市による、第三セクター方式、指定管理者制度で行っている。人員は 4 名(正)パート 11 名取締役 5 名である。経営状態はオープン当時は話題性もあり 14 万人弱の来場者があったが最近同様の施設との競合もあり 6 万人前後である。収益の面で厳しくなっているが新しいイベントやオリジナルティを持つことで頑張っていきたいと説明を受けました。

<所見>

「おいしい学校」は廃校リノベーションプロジェクト全国 9 選にも選ばれた。学校再利用では非常にアイデアにあふれた取り組みである。経営的に少し苦しくなっているが市の持ち出しは少額で本町のランドとは比較にならない。旧常豊小学校の再利用を考えるうえで参考にすべきである。再利用にあたっては費用の面も考慮しつついかにマイナスをプラスに転じて地域を活性化できるかである。

②長野県木島平村

木島平村では地域の唯一の県立高校、下高井農林高校との連携事業を研修しました。

・連携その1

特定外来植物アレチウリの駆除活動 担当 民生生活環境係

ボランティアがアレチウリの抜き取り行うときにアレチウリの生態や、環境に及ぼす影響、効果的な駆除方法を教えてもらう。

・連携その2

森の再生プロジェクト 担当 産業課農林係

ブナの苗木をブナ林から採取し、npo 法人森のライフスタイル研究所指導のもと牧場跡に植樹してブナの森に還す活動。

・連携その3 地域での食農教育 担当 農業振興公社

村民との交流を目的としてそば打ち技術の向上指導、そば振興の実践など。

・連携その4 地域での食農教育 担当 教育委員会

地元食材を活用した小中学校の給食献立の考案や食材提供

連携その5 園芸福祉交流 担当 社会福祉協議会

ディサービスの農業活動を通じて高校生とお年寄りとの交流を図り、生きがいづくりにつなげている。最後に申しあげるが町唯一の高校を存続させるにはありきたりではなく、深い連携事業の展開が不可欠である。

③宇都宮市 道の駅ろまんちっく村

道の駅ろまんちっく村は平成19年株式会社「ファーマーズフォレスト」が日本のローカルをワールドクラスにする地域をコンセプトにオープンし、経営しています。村内は里のエリア、森のエリア、集落のエリアに分かれており農産物直売所、レストラン、地ビール館パン工房、小型犬ドッグラン熱帯植物園、天然温泉(日帰りと宿泊)、などがある46ヘクタールの広大な滞在型のファームパークである。これからオープン予定の新規ホテルを建築中でした。

收受年月日	議員派遣事務局調査研修等報告書
元・11・27	
第 号	委員派遣 藤田 根本

令和元年 11月 27日



委員会委員長 様

提出者 鈴木 安次

派遣目的 (調査等 名称)	総務・経済常任委員会行政視察		
派遣の 日時	令和元年 11月5, 6, 7日	派遣先 (場所)	山梨県北杜市・長野県木島平村
内容	1、 廃校利用の過疎地域活性化の施策について (おいしい学校) 2、 下高井農林高校と木島平村の連携		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	1、 廃校利用の過疎地域活性化の施策について群馬県北杜市において研修を行った。 山梨県北杜市は総人口46,809人 21,404世帯面積は602,89㎏埴町の約3倍、森林占有率は76,4%である。 平成16年11月に7町村の合併により誕生しその後小淵沢町を編入合併し新「北杜市」が誕生した。 2018年第6回「住みたい田舎」ベストランキング総合部門第1位ちなみに「子育て世代部門」第1位は茨城県常陸太田市である。 北杜市は昼間人口が多い。と言うことは、働く場所がある。働いている人が多いと言うことで羨ましい限りである。 埴町在町の企業に情報を提供するだけで、企業誘致に動こうとしない町当局に反省を促したい。 観光業も山梨県では第3位、豊富な水を利用した企業による農業参入が急増中である。埴町も逆転の発想による企業誘致は可能である。 いかに町長が広告塔になり埴町の魅力を発信して行くことが出来るか、代議士にアポを取ることなく名刺を置いてくるだけでは埴町の発展は望めない。 明治・大正・昭和の三代校舎ふれあいの里では明治校舎の歴史資料館・大正校舎の農業体験施設・昭和校舎の「農産物等活用型総合交流促進施設 (おいしい学校) として整備され平成14年開園当初は138,000人、最近は類似施設が出来たので6万人弱と低迷し		

平成30年には768万円の赤字を出した。

最近民間企業に譲渡し経営再建を図っているとのことであった。

民間企業が経営に当たると言うことはまだまだ「おいしい学校」には魅力があるということなので頑張ってほしい。

2、 下高井農林高校と木島平村の連携

木島平村は人口が4,694人面積は99,32km²で埴町の人口、面積ともに約半分である。

農業が主な産業で米のオリンピックとも称される「米・食味分析鑑定コンクール：国際大会」10年連続受賞中であり、その米を「村長の太鼓判」のネーミングで販売をしている。近年は遊休農地でそばを栽培し道の駅ファームス木島平で販売し多様な農業の展開を目指し6次産業化にも取り組んでいる。

下高井農林高校との連携では「グローバル・アグリハイスクール宣言」第3次アクションプラン（5つの基本方針）1、グローバル教育で人材を育てる学校 2、地域社会・産業に寄与する学校 3、地域交流の拠点となる学校 4、地域防災を推進する学校 5、地球環境を守り創造する学校のもと一般参加者とともに特定外来植物アレチウリの駆除活動 森の再生プロジェクトでは酪農家の減少により国から借り受けた国有林の牧草地にブナの稚樹を植えてブナの森に返す活動 地域での食育活動ではそば打ちを通して村民との交流やそば振興の実践そば打ち技術の向上に取り組んでいる。

園芸福祉交流ではデイサービスの農業活動を通して地域のお年寄りとの交流を図りお年寄りの生きがいづくりに寄与している。

又、特筆すべきは木島平教職員会（春秋2回開催）である。

木島平小学校、木島平中学校、下高井農林高校の教職員一堂が合同で研修会等を行っている事である。

内容は教職員の移動によって下高井農林高校と木島平村の連携事業に対する温度差が実在する為に少しでも和らげようと懇親会を開催し村が御馳走している。

村にとって下高井農林高校とは就農者の高齢化、耕作放棄地の増大など一層厳しさを増す中、農業農村の維持と担い手育成の役割は大きく、下高井農林高校において重機の講習や除雪オペレータの確保に寄与するなど村に取ってなくてはならない高校であるため、高校から村への要望を聞くなど積極的に応援している。以前は村の予算で軽トラックを購入し無償貸与していたが現在は行われていない。少子化により飯山地域にあった高校も3校から1校に統合され、村にある唯一の下高井農林高校もその高校のサテライト校の提案が

あるなど存続に対しては何処も同様の悩みを抱えている。
村がいかにか下高井農林高校を大切にしているか話を聞いていてひしひしと伝わってきた。
埴町ももっと前から埴工業高校に積極的に係わりをもっていれば現在置かれている状況より良くなっていたのではないかと思われ残念である。



收受年月日 元・12・ <u>1</u>	議員派遣 委員派遣	遺務局長 遣	調査 藤田	研修 根本	修等報告書
第 <u> </u> 号 議会議長					

1 年 12 月 1 日



委員会委員長 様

提出者 新貝 毅一

派遣目的 (調査等 名称)	総論、経済第1委員会 行政視察研修		
派遣の 日時	11月5~7日	派遣先 (場所)	山梨県北杜市、長野県木島平村
内容	<p>1. 北杜市 廃校利用と過疎地域活性化</p> <p>2. 木島平村 下高井農林高校について</p>		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>北杜市は山梨県の北西部に位置し、総面積602.89km²で人口は46,809人(令和元年10月1日)森林76% (日本一) ミネラルウォーター生産量、日照時間、国産材不虫研生息数(三代校舎、ふれあいの里) 明治、大正、昭和と3つの時代に建築された校舎を同じ場所に復元しそれぞれ違った形で運営 昭和校舎(総合交流促進施設)は(株)おひし学校が指定管理者として運営</p> <p>木島平村は長野県北東部に位置し面積99.32km²人口は4,694人 森林80% 産業は農業 地域と連携する下高井農林高校 1学年80人 2クラスを維持し全校生200~240人 年次別に学科、コースを選択し多種、多様に学び体験する。 生徒数の減少など高校再編が進む中、存続が厳しい状況、だが外部に頼らず頑張っている。</p>		

收受年月日	議	議員派遣	調査	研修等報告書
元・11・27	議	委員	委員	
第	議	藤田	根本	写
議会	委員長	様		
委員会	委員長			

令和元年11月24日

提出者 鈴木 孝則

派遣目的 (調査等 名称)	総務・経済常任委員会行政視察研修		
派遣の 日時	11月5日・6日	派遣先 (場所)	山梨県北杜市・長野県木島平村
内容	<p>1 北杜市 廃校利用の過疎地域活性化の施策について 農産物等活用型総合交流施設 「おいしい学校」</p> <p>2 木島平村 下高井農林高校との連携について</p>		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>1 明治、大正、昭和の校舎が同じ場所に復元されており明治の校舎は旧須玉町の歴史資料館として平成3年に復元され県の指定文化財である。NPO法人が指定管理者、大正校舎は農業体験農園施設として平成11年に開業し地域住民の大正館管理委員会が指定管理者として運営している。昭和校舎は総合交流促進施設(おいしい学校)として平成12年開業し地元農産物販売、地元野菜を利用したレストラン、パン工房、宿泊施設などがあり平成18年から(株)「おいしい学校」が指定管理者として運営している。おいしい学校は当初13万8千人の利用者があったが現在は6万人程度であり赤字については市が補てんしている。経済効果としては地元野菜の直売、地域高齢者の経験を生かした農業体験、ほうとうやそば打ち体験の指導など都市住民との交流を通じ地区の活性化に貢献している。</p> <p>2 下高井農林高校は北信濃・飯山地域唯一の農業高校であり1学年80名程度で木島平村の中学生3年生は約40名中、農林高校へ進学する生徒は10名程度。飯山市内の普通校3校は1校に統合されている。村は10年ほど前から高校との関わり合いを持ってきたが金銭的な支援はない。連携事業として特定外来植物アレチウリの駆除、森の再生プロジェクト、そば打ちなど地域での食育教育、デイサービスでの高齢者との交流園芸福祉交流を行ってきた。今更だが、只見町もしかりで、存続を目的とした長年の取り組みが大事であることを再認識した。</p>		

2

2

2

收受年月日	議長	事務局長	書記
元・11・20	議員派遣	委員派遣	藤田
第 号	委員派遣	藤田	根本

調査等報告書

令和元年 11 月 20 日



議会 議長
委員会 委員長 様

提出者 大 繩 武 夫

派遣目的 (調査等 名称)	総務及び経済常任委員会合同視察研修		
派遣の 日時	令和元年 11 月 5 日 (火) から 11 月 7 日 (木)	派遣先 (場所)	山梨県北杜市、長野県木島平村
内容	北杜市：廃校利用の過疎地域振興施策 木島平村：村内の県立農林高校と村との連携施策		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>(北杜市)</p> <p>平成の大合併により誕生した北杜市は、自然豊かな状況でありつつ企業進出も盛んで、立地条件に恵まれている。視察をした廃校利用の農業体験や宿泊ができる施設は、幹線道路から 10 分程度入った所にあり、あまり人目に付かない場所にあるが、明治～大正～昭和と 3 つの施設が並ぶ現地は大変趣きがあった。常住の職員もおり、経営的にも市からの補助を受けて運営をしている点は大変参考になる。施設では農産物の直売や、カフェ、食堂、宿泊もできるようになっていた。施策実行にあたっては、企画力や PR 方法等を検討しつつ、身の丈にあった地域振興策が実行できればよいのではないかと感じた。</p> <p>(木島平村)</p> <p>村内の農林高校との連携は、「金を使わず人を使って」実施されており、毎年の計画は役場職員や教育委員会、小中高校の教員も交えて複数回の懇談を経て実施に至る経過は、大変勉強になった。特に高校の教員は実習系の高校をローテーションで回る人事異動で、役場職員との交流が密になることから、施策の計画や実行の一助となっている。全国的な少子高齢化で高校の統廃合計画は本県でも同様であるが、木島平村と周辺の北信越地域においては、域内市町村が連携して高校の存続への動きを統廃合計画が出る前に動いていたことには関心した。</p>		

